

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	24-019	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Joint association of drinking alcohol and obesity in relation to cancer risk: A systematic review and data synthesis 飲酒と肥満が癌リスクに及ぼす影響：系統的レビューとデータ統合		
執筆者		
Macdonald GA, Thomas JA, Dalais C, Kendall BJ, Thrift AP.		
掲載誌		
Cancer Epidemiol. 2024 Aug;91:102596. doi: 10.1016/j.canep.2024.102596.		
キーワード		PMID
肥満、アルコール、がんリスク、交互作用		38870623
要 旨		
<p>背景：アルコールと肥満は相互に作用して、がんリスクに影響するかどうかについて、系統的レビューを行った。</p> <p>方法：PubMed、Embase、Cochrane Library、Web of Science を用い、2024年2月13日までに報告されたアルコール、肥満、がんリスクに関する文献を検索し、系統的レビューを行った。十分なデータがある文献を対象とし、メタ分析を実施した。</p> <p>結果：文献検索の結果、17740論文が抽出され、そのうち24論文を本研究の対象とした。そのうち11論文ではBMI別のアルコールとがんリスクとの関連、9論文ではアルコール摂取量別のBMIとがんリスクとの関連、6論文ではがんリスクにおけるアルコール摂取量と肥満の交互作用についての報告であった。系統的レビューを行った結果、がんの種類を問わず、アルコール摂取と過体重/肥満ががんリスクに及ぼす相互作用の一貫したパターンはなかった。なお、メタ分析を行うためのデータが不十分で、研究対象のがんに大きな異質性を認めたため、系統的レビューのみを行った。</p> <p>結論：アルコールと肥満は、種々のがんの重要なリスク要因であるが、複合曝露とがんリスクとの関連についてのデータは不足している。今後、多種のがんを対象にしたさらなる研究が必要である。</p>		